

建設業を取り巻くインフレ、日本メーカーのプレミアム価格にさよなら

モノリスコーポレーション株式会社



仲松 信夫

取締役技術開発部長
日本床施工技術研究協議会 理事
一級左官技能士
メクレーン開発者(特許取得済)

依然として続く建設資材の高騰は、現場の収支構造を圧迫し続けている。鉄筋・セメント・型枠材だけでなく、輸送燃料や現場の電力費まで上昇。さらに政府の賃上げ方針により、2025年3月から適用されている公共工事設計労務単価は、5年前と比べ全国全職種単純平均で22.9%の引き上げとなった。

本来であれば賃上げは歓迎すべき変化だが、工事価格への転嫁が追いつかず、業界全体が「値上げしながらも利益が増えない」という矛盾した状況に置かれている。

中小・零細企業に至っては、インフレが資金繰りを直撃し、倒産要因の上位に「労務費高騰」が並び状態が続く。こうした構造的な負荷が積み重なれば、否応なく省力化・機械

化による生産性向上が必須のテーマとなる。

その前提のもと、コスト削減を真剣に考えるのであれば、中国メーカー XINGYI (シンイー) の機械を冷静に評価する価値は大きい。同社はすでに130か国以上で販売実績を持ち、その流通範囲自体が、「品質」「価格」「耐久性」という3点の総合力が世界で認められている証拠と言える。とくにコンクリート床仕上げ・研磨機械の分野で、世界基準を支える主要メーカーとして位置づけられている。

安からう悪からうの製品が、世界市場でここまで拡大しないだろう。実際、欧州・中東・アジアの大規模現場で使われていることを考えれば、その評価が単なる価格競争の産物ではないことは明らかだ。

一方で、日本の機械・建材メーカーの現状はどうか。部品の一部に海外製を採用し、特に研磨機で最もコストを圧迫する消耗品は中国製が中心となっている。つまりサプライチェーンの実態はすでに国際化しているにもかかわらず、製造・流通の多層構造——さらには「国内ブランドとしての安心料?」が積み

重なり、最終製品価格は高騰している。インフレ環境下ではこの構造がより強く作用し、施工者側の導入負担は増す一方だ。

現在の市場環境を踏まえると、「品質を保ちながらコストを削減する」という課題への現実的な解として、XINGYI の機械は有力な選択肢になり得る。導入コストが圧倒的に低だけでなく、世界市場で鍛えられた耐久性と、安定した部品供給網を持つという優位性がある。

インフレが常態化しつつある今、国内メーカーだけを前提とした比較では限界がある。

XINGYIを含むグローバルな選択肢を視野に入れ、「どこに投資し、どこで支出を抑えるのか」という判断軸を持つことこそ、これからの建設業界に求められる姿勢ではないだろうか。

問い合わせ先

モノリスコーポレーション株式会社

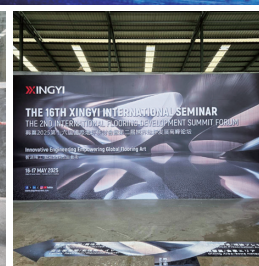
TEL.042-851-4077

MAIL info@monolith-c.co.jp

https://www.monolith-c.co.jp/

研磨魂につきましては

MAIL info@why-not.biz



その機械・その建材は今の
日本メーカーの

ままで大丈夫!?
“プレミアム価格”にさよなら

XINGYI & MONOLITH CORPORATION

低価格・高品質で
全世界130カ国への
圧倒的販売実績

価格革命

コンクリート床仕上げ
機械施工を世界中が選ぶ
XINGYIで!



MONOLITH CORPORATION

モノリスコーポレーション株式会社
<https://monolith-c.co.jp>



その他関連記事は102頁をご覧ください。

日本人初
第16回
国際フロアセミナー
&
世界フロア発展サミット
登壇

XINGYI

THE 16TH GLOBAL FLOORING SEMINAR
THE 16TH XINGYI INTERNATIONAL SEMINAR
THE 2ND INTERNATIONAL FLOORING DEVELOPMENT SUMMIT



コンクリート床仕上げの機械化施工
世界基準を知らなくて大丈夫?

MONOLITH CORPORATION

モノリスコーポレーション株式会社
<https://monolith-c.co.jp>



その他関連記事は
102頁をご覧ください。